

新時代の大型映像ビジネス

117

中国・広州で開催された「2018 International Signs and LED Exhibit」(ISLE2018)の会期2日目(3月4日)には、このコラムの筆者である映像新聞ライターでフリージャーナリストの川田宏之が、「日本における大型LEDディスプレイ市場の現状とデジタルサイネージなどの展開」をテーマに、同イベントのセミナー会場で2時間半にわたり講演し、日本国内の大型LEDディスプレイ市場に参入している各国のLEDメーカーやベンダー、販売会社などの取り組みについて伝えた。その講演内容を報告する。

(川田宏之)

ISLE2018で講演



講演する筆者

●日本メーカーの動向
講演では、まず日本メーカーの動向を紹介した。三菱電機は、1980年に世界的な大型映像ブランドのオーロラビジョン(海外ブランド名・ダイヤモンドビジョン)を商品化以降、世界のトップメーカーとして長年にわたり君臨している。製造は長崎製作所である。国内では東京競馬場などの公営競馬場や東京ドームなどのスタジアムを中心に実績があるが、レンタル向けでも孫会社のビジョンテクノネットを中心に実績を伸ばしている。超高精細LEDは1ピッチピッチ台を京都製作所が開発。2017年度に監視制御システムとして

大型案件を受注した。京都市では監視制御市場中心に訴求している。長崎のオーロラビジョンとは別たのを最後に自社生産からは撤退した。その後は大型LEDは他社から調達しながら、主にアジア向けにカメラやスイッチャーなどを含めたトータルソリューションとして販売実績を上げている。

●中国からの進出
次に日本市場に進出している中国の大型LEDディスプレイメーカーなどの動向も報告した。レイヤードジャパンは、中国のトップブランドのレイヤードの子会社として2014年に設立。当初は1ピッチピッチ台の超高精細LEDを売りに、エルテックやテレビ朝日サービスなどの映像機器

大型LED市場の現状を報告

事業体制にある。赤見電機は、1995年に世界初の本格的な屋外型フルカラーLED大型映像システムを渋谷駅開発で超高精細LED

盛んな中国メーカーの日本進出 1ピッチピッチ台の超高精細製品も

体制で大型LEDディスプレイメーカーとしてもこの市場で大きな実績を残している。街頭大型ディスプレイで展開しているユーシオンで展開している。トップスポンサーとなっている2020年東京五輪に向けては、メイドインジャパンでの大型LEDディスプレイの自社工場生産計画を模索。旧鹿島松山下電子の鹿島工場(現・パナソニックセミコンダクターソリューションズ)の製造ラインでのLEDモジュール生産も検討中だ。既にヒビノ向けに、パナソニックブランドの大型LEDディスプレイを供給している。

映像新聞無料メールマガジン

Vizcom

映像新聞がお届けするメールマガジン「Vizcom」は、ビジネスに役立つ情報をいち早く提供していきます。

配信登録は www.eizoshimbun.com

社製品である。これら既設製品のメンテナンス体制の充実を含めて同社は設立された。映像機器レンタル会社にも実績があり、映像センターやショットビジョンなどが同社製品を採用している。クリエイトLEDジャパンは約3年前に設立された。クリエイトLED社の製品を数多く販売しているのはエヌジーエルテックやテレビ朝日レンタル会社や大手ショッピングモールなどにも販売実績がある。なお、NGCは2ピッチピッチ台の製品まではクリエイトLED、1ピッチピッチ台はAOTO製品を扱う。AOTOジャパンは2017年設立。AOTO

前に設置したメーカーとして知られる。このような街頭大型ビジョンの市場ではダントツの実績を誇っている。同社の赤見正文社長は「当社はメイドインジャパンにこだわりの他社とは一線を画す」としている。

●ヒビノは、大型LEDディスプレイなどをレンタル市場で運用する映像機器レンタル業界の大手企業である。これとは別

「クリスタルLED」を市場に投入した。マイクロLEDのはりといわれるこの製品で超高精細LED市場に臨んでいる。価格が高いのがネックだが、国内外で既に販売実績があるという。

●ヒビノは、大型LEDディスプレイなどをレンタル市場で運用する映像機器レンタル業界の大手企業である。これとは別

製品は昨年、大手映像機器レンタル会社の光和が大量に導入した。また東芝など大手電機メーカーでも同社製品を扱っている。

ユニルミン製品も日本市場に広く販売されている。日本市場にいち早く進出したユニルミンの日本事務所を名乗っているのがITメディア社である。さらに2年前からユニルミン製品の拡販を積極的に展開しているのがブリッジリンクで、同社はレンタル機材としてユニルミン製品を多数所有しており、レンタルと販売をしている。

ユニルミンの特徴は、この2社以外にOEMとして日本企業に多く製品を供給している点である。屋外の街頭大型ビジョン市場では、ヤハム社のシェアが圧倒的に高い。ヤハムの日本事務所は現在はないが、ヤハム製品を扱う日本企業は多く、日本では市場を席巻している。

このように近年、中国LEDディスプレイメーカーの台頭が日本市場では著しい。さらに米国のシリコンコア・テクノロジやベルギーのバルコ、韓国のギャラクシアなども日本市場では一定の成果を上げており、日本の大型LED市場は激戦模様である。

Ginza Sakuraya

TOTAL AV SOLUTION

ハイクオリティな映像表現に必要な機器のすべてを、
トータルにサポートできる豊富なラインナップと技術力。

それが、プロフェッショナルたちに選ばれる理由。

C

Capturing 撮る

E

Editing つなぐ

S

Showing 見せる

▶▶ 銀座サクラヤのCESコンセプト

映像・音響機器のレンタル・販売

株式会社 銀座サクラヤ

http://www.ginzasakuraya.com